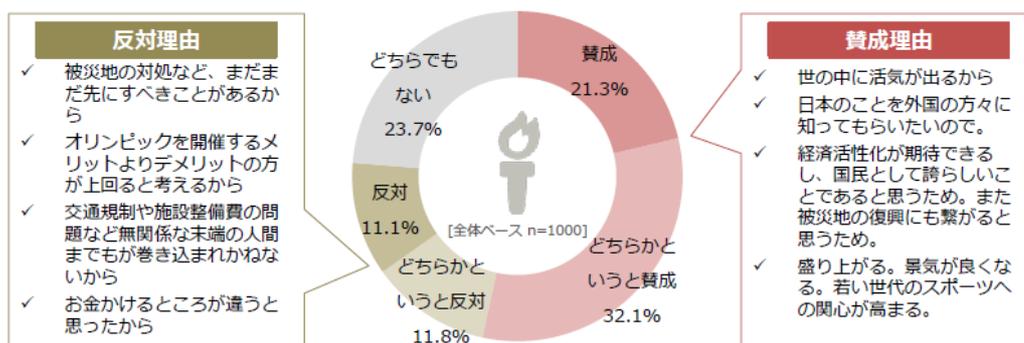


私たちがつくる東京オリンピック

大手前高松高等学校 1年 窪 舞

2020年、東京では二度目のオリンピックが開催される。開催が決定した当時はとても盛り上がった話題であるが、現在では、新国立競技場問題や、公式エンブレム問題などで、2013年では、賛成が77%であったのに対し、2017年には21%と大きく低下している。

〈図1〉 2020年 東京オリンピック開催の賛否



そこで私は、オリンピックについて、もう一度知り直し、根本から立て直していく必要があると考えた。そもそも、オリンピックの本来の意義とは何なのかということをもとに、開催都市への経済効果や平和の課題について述べていく。

1. オリンピックの目的

そもそも、オリンピックの開催目的は、オリンピズムへの奉仕であるといわれている。オリンピズムとは何かというと、「オリンピズムの根本原則」の中に次のように表現されている。

「オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である」

つまり、文武両道を目指すための奉仕であるといえよいだろう。

実際に、一定の成績がなければ出場することができないという取り組みが海外でも日本でもされている。オリンピックは文武どちらにおいても努力をしてきた者だけが出場できる価値のあるイベントなのだ。

しかし、政府基本方針の中で、次のような表現がある。

「世界中の多くの人々が夢と希望を分かち合える歴史に残る大会にするとともに、自信を失いかけてきた日本を再興し、成熟社会における先進的な取り組みを世界に示す契機としなければならない。」

これは、スポーツに関係することではなく、日本の経済を活性化することについて言っているだけなのではないだろうか。本来、オリンピックは文武両道を目指す人たちへの恩

恵を与えるものであり、その開催国の経済を持ち直すためのものではない。もちろん、オリンピックによって国が活性化するという意見もあってはならないわけではないが、原則として、一番は、恩恵を与えられる側ではなく、与える側にならなくてはいけないということを再認識する必要があると思う。

また、最近では、メダルの獲得数によって、国同士でランキングをつけている。このことについても問題があると思う。

オリンピック憲章にも次のように書かれている。

「オリンピック競技大会は、個人種目または団体種目での選手間の競争であり、国家間での競争ではない。」

オリンピックでの選手たちの功績が国同士の競争に使われるというのはあまり望ましいことではないと思う。

2. 経済効果が必ずしもでるとはかぎらない

1でも述べたように、経済の発展だけを目的とするのではいけないが、経済に効果をもたらしてくれることは悪いことではない。しかし、オリンピックで必ずしも、利益がでるとはいいきれない。仮設や輸送、広報やテクノロジー、また、なんととっても世界中の国から人が集まるので、セキュリティも強化しておく必要がある。いかに赤字を出さないかというところも大きな問題点となっている。もし、赤字を出してしまえば、東京都の税金から補い、それでもたりなければ、国の税金から補うことになってしまう。オリンピズムへの奉仕をしすぎてしまい、開催都市におおきな損害を与えてしまえば、これは本末転倒なのではないだろうか。最終的に評価されるのは、黒字か赤字かというところではなく、オリンピックにいかにお金をうまくつかえたのか、オリンピック後にもものこる利益を生むことはできたのかというところである。いかに上手にしていくかが今後の課題であると思う。

3. 平和について

オリンピズムの定義には次のようなことも書かれている。

「オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会を奨励することを目指し、スポーツを人類の調和の取れた発展に役立てることにある」

「このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会のルーツ、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない」

オリンピックのような一大イベントとなれば、全世界から大勢の人が集まってくる。

そんな中で、1968年のメキシコシティオリンピック開催中にアメリカ公民権運動で黒人差別に抗議した黒人選手が大会から追放されるという事件が起こった。ほかにも、1972

年にはミュンヘンオリンピック中に、パレスチナゲリラによってイスラエルのアスリート 11 名が殺害される、黒い九月事件とよばれる悲劇がおこった。

このようなことは、オリンピックの中でおこってはいけないことであり、食い止める必要がある。そのためにも、セキュリティを強化するだけでなく、前に述べたオリンピズムの定義をもっと広く知ってもらう必要があると思う。

今まで、抱えているオリンピックの課題について、述べてきたが、私たちも東京オリンピックに関わることはできる。次に、私たちが 2020 年の東京オリンピックで何ができるのかということについて、述べていく。

4. 私たちの東京オリンピックとは

2020 年 4 月 1 日の時点で満 18 歳以上であった場合は、東京オリンピックでボランティアとして手伝うことができると発表された。

応募条件は次のようなことである。

- ①2020 年 4 月 1 日時点で満 18 歳以上の方
- ②ボランティア研修に参加可能な方
- ③日本国籍を有する方又は日本に滞在する資格を有する方
- ④10 日以上活動できる方
- ⑤東京 2020 大会の成功に向けて、情熱を持って最後まで役割を全うできる方
- ⑥お互いを思いやる心を持ちチームとして活動したい方

最後に述べられている条件が一番重要であると思う。オリンピックに参加するうえで、よりよいものにしていくためには、ボランティア全員、また選手も同じチームとして、開催する必要があると思う。

また、ボランティアの内容としては、誘導・案内や、ドライバー、スタッフ受付、運営や医療などのサポーターがある。

そして、われわれに必要となってくるのは、やはり言語である。オリンピックで手助けをすとなれば、世界中の人とコミュニケーションをとることは必要になってくる。そのためにも、私たちは、少しでも、東京オリンピックを成功させるために 2020 年までにそれぞれが努力を積んでいかなければならないと思う。

東京オリンピックをよりよいものにしていくためには、もちろん政府のちからも必要である。しかし、私たちのように若い世代のちからも大きな助けとなると思う。私たちがもういちど、オリンピックの本来の意義について再認識し、今までのような悲劇が起らないように食い止め、オリンピズムへの奉仕をしていくとともに、全世界に通用するようなボランティアをしていけたなら、それは私たちにとってのオリンピックは 1964 年に開催された東京オリンピックに次ぐ、素晴らしいものになるだろう。私たち全員が東京オリンピックに関わっていく人材として、根本から理解しなおしていくとよいと考えた。

【参考文献】

- ・「東京オリンピック」 小川勝 著
- ・「オリンピックはなぜ、世界最大のイベントに成長したのか」 マイケル・ペイン 著
- ・ミュンヘンオリンピック事件 ウィキペディア
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%A5%E3%83%B3%E3%83%98%E3%83%B3%E3%82%AA%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%83%94%E3%83%83%E3%82%AF%E4%BA%8B%E4%BB%B6>
- ・オリンピック憲章 2015年版 日本オリンピック委員会 2016
- ・2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（2015年11月27日閣議決定）
- ・東京2020年大会のボランティア活動
<https://tokyo2020.jp/jp/get-involved/volunteer/about/>
- ・組織委員会及びその他の経費
<https://tokyo2020.jp/jp/games/budgets/>
- ・支持率結果調査、77%に!（2013年3月26日）
<https://tokyo2020.jp/jp/news/bid/20130326-01.html>

【引用元】

- 〈図1〉2020年 東京オリンピックに関するアンケート（2017年度版）
<https://www.cross-m.co.jp/news/release/20170529.html>